

「この一行に逢いにきた」



10/27(日)～11/9(土)は秋の読書週間です。
2024年の標語は“この一行に逢いにきた”。国語の授業で印象に残っている文や、電車の広告、テレビCMなど印象に残っている言葉に出会ったことはありませんか？
一行からストーリーを想像したり、後から「こういう意味だったのか！」と納得したり。広がる世界を楽しみましょう！

👁️👁️ どこで見たっけ？有名な一行たち

「ideas for life」⇒パナソニックのCM

パナソニックといえばこのセリフ。家電CMの最後に必ず流れていたキャッチコピーです。ちなみに、2024年現在のブランドスローガンは「幸せの、チカラに。」

『道をひらく』
松下幸之助 著
PHP研究所. 1968
(159-マ-1・2)

著者はパナソニック創業者である松下幸之助。経営に対する考えや人生観をつづった短編集です。今の時代でも色あせない名著です。

「下人の行方は誰も知らない」⇒『羅生門』のラスト

国語の授業で一度は読んだことがあるであろう『羅生門』の最後の一行。物語に続きがあったとしたら、このあと下人はどうなったと思いますか？

『羅生門・鼻』
芥川龍之介 著
新潮社. 1968
(B-913.6-ア)

1915年に発表された本作。100年以上前の作品が読まれ続けています。教科書に初めて掲載されたのは1957年。

「ある日、少女が空から降ってきた…」⇒天空の城ラピュタ

映画公開時のポスターキャッチコピー。最近TVで放送されていましたが見ましたか？

『天空の城ラピュタ』
スタジオジブリ 編
文藝春秋. 2013
(B-778-ス-2)

映画公開は1986年。キャッチコピーは作品の印象的なシーンですね。この本では映画制作秘話や有名小説家たちの作品解説を読むことができます。